



平成 23 年 4 月 19 日

各 位

会社名 アドアーズ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 中川 健男
 (JASDAQ・コード番号 4712)
 問合せ先 代表取締役専務 兼 管理本部長
 八多川 昭一
 (TEL. 03-5623-1100)

特別損失の計上及び

業績予想ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）において、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせ致します。

またこれに伴い、平成 23 年 2 月 8 日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表しておりました平成 23 年 3 月期の通期業績の予想数値を下記のとおり修正するとともに、平成 22 年 5 月 12 日付「平成 22 年 3 月期決算短信（非連結）」にて発表いたしました通期配当予想を修正致します。

記

1. 特別損失の計上、その内容

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が所有する事業用資産（直営アミューズメント施設、アミューズメント機器、保有不動産）の一部について、収益性の低下等により減損の兆候が認められたため、当該固定資産にかかる収益可能性を検討し、減損損失を 3,096 百万円計上する見込みとなりました。なお、このほか保有債権・資産のうち、一部の資産評価についても 130 百万円の評価減をいたします。

また、リーマンショック以後の市場動向ならびに直近の諸環境の激変を鑑み、直営アミューズメント施設のうち、資金効率が悪化している施設について閉店をするものとし、この閉店費用として 799 百万円を計上致します。

2. 平成 23 年 3 月期通期業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

(1) 業績予想値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当り 当期純利益
前回発表予想 (A)	26,500	200	50	0	0 円 0 銭
今回修正予想 (B)	25,900	250	70	△4,200	△39 円 80 銭 (※)
増減額 (B-A)	△600	+50	+20	△4,200	—
増減率 [(B)-(A)]/(A)	△2.3%	+25.0%	+40.0%	—	—

(ご参考) 前期通期実績 (平成 22 年 3 月期通期)	26,034	848	637	270	5 円 91 銭
----------------------------------	--------	-----	-----	-----	----------

※平成 22 年 5 月 1 日付けをもって、1 株を 2 株に株式分割しております。

※平成 23 年 3 月期一株当り当期純利益は、第 3 四半期末での期中平均株式 105,539,249 株にて割った数値となります。

(2) 修正理由

平成23年2月8日付「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当社は、主力のアミューズメント施設運営事業において、各種集客施策によって女性・ファミリー層、シニア層への認知・アプローチから各店のお客様のご来店・在客数は前年対比で伸び続けていたものの、消費マインドの足踏み状態等をふまえ、当期業績予想を下方に修正致しました。

業績修正後、プライズジャンルを中心に更なる新規顧客層の獲得が進み、2月度から3月上旬にかけての既存店売上高前年比は103%を超えるなど、大幅な復調の兆しを実感しはじめたところに、今般の大震災が発生し、以後はその甚大なる被害と深い悲しみの中、消費マインドのみならず国内経済全体が一旦停滞するまでの非常に厳しい状況に陥りました。

さらに原子力発電所の事故が重なり、電力危機が首都圏全体の喫緊の課題となる中、当社としましても店舗の営業自粛のみならず、節電に向けた販促活動の抑制など自主的な営業体制の見直しを行ったことにより、震災直後の一週間の売上高は大幅に落ち込むこととなりました。また設計・施工事業につきましても、震災による影響から比較的受注金額の高い物件の完工を軒並み延期せざるを得なくなったことにより、通期売上高について再度減額修正とせざるを得ない見通しとなりました。

しかしながら、人の集まる地域コミュニティの場として、また日常を一瞬でも忘れることのできる癒しの空間として、「ひとりではいたくない」・「日々続く深い悲しみや先行きの見えない閉塞感を少しでも紛らわせ、明日の活力にしたい」というお客様の声にも後押しされ、3連休以後は比較的時間消費の長いメダルゲームを中心に客足が戻り、3月最終週の既存店売上高は概ね前年比並を確保できる状況まで回復しつつあります。

以上のように3月度の営業利益・経常利益については、震災による売上減少の影響はあったものの、2月の好況分と各種コスト抑制効果で補える形となり、ともに前回修正時に対して若干でありますが上回る見通しとなりました。

一方、個店別に見た場合、震災ならびに節電対応による影響から大きく収益の低下した店舗もある他、電力危機の長期化や今後の国内市況予測を慎重かつ保守的に見据えた上で将来の収益見積を行った結果、一部店舗の減損・閉店ならびにそれに付随するアミューズメント機器の減損・廃棄を実施することと致しました。また保有不動産についても、将来収益評価のみならず、積極的に売却する意向を固めた上で国際財務報告基準の適用を見据え、減損処理を行った結果、大幅な特別損失を計上することとなったため、当期の最終利益につきましても大幅な純損失へ陥る見通しとなりました。

3. 配当予想の修正について

現状の見通しならびに今回の特別損失の計上により、こうした未曾有の事態の中でも収益を確保できる経営体質へと向かうことができるものと考えておりますが、この不透明な難局を乗り切ることが最大の株主還元と判断せざるをえない状況であることから、従来一株当たり3円50銭としておりました平成23年3月期の期末配当につきましては、まことに遺憾ながら無配とさせていただきます。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上